あおい通信 第118号

第118号 平成27年3月1日
リハビリテーション
デイサービス葵・編集委員会
練馬区東大泉3－17－5
カトウビル3F
電話 03－3978－0919

日本の世界遺産めぐり その十二

紀伊山地の霊場（れいじょう）と参詣道（さんけいみち）（文化遺産）

熊野参詣道

熊野参詣道・中辺路の大門坂

和歌山県・奈良県・三重県にまたがる三つの霊場（吉野・大峰・熊野三山、高野山）と参詣道（熊野参詣道、大峰奥駈道、高野山町石道）を対象とする世界遺産として、二〇〇四年七月七日に登録された。世界遺産として「道」の先例であるサンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路のあるスペインガリシア州と和歌山県とは両古道の姉妹道提携を締結している。

（世界遺産登録基準については一一一号で紹介しておりますのでご参照ください。）

この項での具体的事項は、（イ）紀伊山地の文化的景観を形成する記念碑と遺跡は、神道と仏教の類いまれな融合であり、東アジアにおける宗教文化の交流と発展を例証する。（ロ）紀伊山地の神仏と仏教寺院は、それらに関連する宗教儀式と共に千年以上にわたる日本の宗教文化の発展に関するひときわ優れた証拠性を有する。（ハ）紀伊山地は神社・寺院建築の類いまれな形式の創造の素地となり、それらは日本の紀伊山地以外の寺院・神社建築に重要な影響を与えた事、である。

登録基準要件の『建築、技術、記念碑的芸術、都市計画、景観デザインの発展に関し、人類の価値に重要な交流を示すもの』であると同時に、紀伊山地の遺跡と森林景観は、過去一二〇〇年以上に亘る聖山の持続的で並外れて記録に残された伝統を反映している。

以下に登録資産を全体的に紹介したいが、

吉野・大峰・・六件
吉野三山・・・・八件
高野山・・・・四件
参詣道・・・・三件

と三県にわたる広大なエリアに右記の通りの神社、山、寺、古道等々が存在するので、具体的には有名な数件を紹介する事とする。

吉野山（よしのやま）

桜花の吉野山

吉野山は奈良県の中央部・吉野郡吉野町にある吉野川（紀の川）南岸から大峰山脈へと南北に続く約八キロメートルに及ぶ尾根続きの山稜の総称、または金峯山寺を中心とした社寺が点在する地域の広域地名である。

古くから花の名所として知られており、その中でも特に桜は有名でかつては豊臣秀吉が花見に来た事がある。現代でも桜が咲く季節になると花見の観光客で賑わう。地域ごとに下千本（しもせんぼん）、中（なか）千本、上（かみ）千本、奥千本、と呼ばれている。

関東地方も、桜開花前線がすぐそこに近づいている様子。今年も美しい万朶（ばんだ）の桜を楽しみたい。

世評・時評

一月は往（い）ぬ、二月は逃げる、三月は去る、昔の人は月の名に頭韻を踏み、冬の終わりから春先を流れる時間の速さで言い表してきた。近づく春の足音に耳をすまし、あるいは何かと行事の多い気ぜわしさに吐息をもらしつつ〝往ぬ、去る〟の実感は人それぞれだろう。

時の過ぎるのが早いか遅いか気づくこともないうちに、殺伐とした事件が世界中を騒がせている。気分も滅入るので話題を変えるが、プロ野球に興味の無い方には退屈な話題かもしれない。

孝行の「コ」の字も知らない息子に、父親が説教した。『金銀を積んでも親は買えぬぞ』。息子が答えた。「売ろうと思っても売れぬ」。江戸期の小咄にある食えない息子である。〈値段のつくものに神聖さは有り得ない〉と、ある経済学者が著している。父、母、友、故郷、売るも買うもできないものは確かに神聖である。

「最後の一球はカーブで投げたい」。黒田博樹（40才）投手が米大リーグのヤンキースから八年ぶりに日本球界に復帰した。黒田には自分を育ててくれた広島ファンが、金銭では計れぬ神聖な父であり母なのだろう。

大リーグからは年俸20億を超えるオファーがあったと伝えられる中で推定4億円の古巣を選んだ。何かと計算ばかりが先に立つせちがらい世の中。5年連続2桁勝利の右腕がどんな投球を披露し、相手チームがどう迎え撃つか、今時珍しく日本人の「神聖な心」を忘れないこの男に、カープファンならずとも感銘を受け胸を揺さぶられた人も多かったろう。いまから開幕戦が楽しみで待ち遠しい。

ヨッチャン

雑記帳

残忍なテロ行為

昨年末から今年にかけて、残忍で悪質なテロが横行している。特に弱者への襲撃は許し難い。昨年12月17日、パキスタンで軍系列の学校を武装集団が襲撃。銃を乱射し、軍当局者児童や生徒141人も殺害された。

イスラム過激派の反政府武装勢力「パキスタン・タリバーン連動（TTP）」が犯行声明を出したが、この組織は2012年当時15歳だったマララ・ユスフザイさんを銃撃した組織でもある。大勢の子供を狙った襲撃事件に、世界中が震撼した。軍当局者によると陸軍が運営する学校で、小学校から高校まで男女千数百人が通学、一般家庭の子供たちも多いという。軍駐屯地のある、学校の裏門付近で何者かが爆発を起こし、その間、武装集団が講堂に侵入して銃を乱射、軍部隊との銃撃戦になった。講堂内には数百人の子供らが取り残されていたとみられる。

願・世界平和

このような卑劣な行為に即、マララさんは「残虐で卑劣行為を非難します。私たちは決して屈しません」との声明を発表した。

K・ドラゴン

葵友の会 広報コーナー

2月度行事の結果

麻雀大会
18日（水）
雪の為、中止となりました。3月18日に順延。

カラオケ会
20日（金）、バンバンにて12名でした。

グルメの会
28日（土）、サイボクハムにBBQと和食と温泉に行きました。25名の参加で賑わいました。

3月度行事の予定

麻雀大会
18日（水）、2月の振替えで開催。

カラオケ会
20日（金）、バンバンで。

定期総会
29日（日）葵にて行います。欠席の方は、委任状を提出してください。

（事務局長）

◆編集委員会より
「あおい通信」は、皆様からの原稿を募集しています。係員・飯島

利用者さんの絆コーナー

相川　誠（火）

学生時代は隅田川でボートを漕ぎ、社会人になってからはテニスに凝った体育会系人間です。葵ではストレッチと俳句を楽しみ、半年になります。

暮れなずむ　秩父稜線

初詣

海に向く　松陰の像

額の花（下田にて）

渡邊　愛子（水）

敬老館で月二回カラオケを楽しんでいます。仲間とおしゃべりするのが楽しみです。今年からパソコンに挑戦したいと思っています。

栗原　好子（月、金）

若い時はバレーボールをしていたんですよ。

今は、歩行が不安定なので、葵ではできるだけリハビリに励みたいと思っています。

蒲公英・句会作品　No.1

節分や　心の鬼を　如何にせん　岸野

荒庭の　草木動かす　雨水かな

ふうふうと　種そろひたり　おでん酒　柳生

白樺や　新芽ふくらむ　雪の中

酪農も　三代となり　厩出し　河角

水車回る　音和らぎて　寒明ける

庭隅の　水仙ひと叢（むら）　ひそと咲く　松本

桜餅　届けてくれる　旧き友

降りしきる　雪におおわれ　庭真白　山田（登）

節分や　誰に冠そう　鬼の面

雪明かり　文読む風情　電気消す　相川

雪景色　ふる里想ふ　風吹けり　佐藤（和）

春の風　本堂の燭　ゆらし過ぐ

梅の香や　ほころび初めし　淡き色　大野（芳）　和田

＊寄稿戴きました全作品二九句全てを、今号に掲載することができませんでした。一五句九名様分は紙面の都合上、次号に繰り延べさせて戴きました。何卒ご了承下さい。（編集長）

傘寿を迎えて

増田義雄

昭和九年生まれの私は、お陰様で、昨年八月に傘寿、満八十歳になりました。節目の今年が戦後七十年、私にとって人生そのもので、太平洋戦争が小学校一年生の時に始まり、五年生の時、終戦を迎えました。その間、小学校は国策で「国民学校」と呼ばれていました。

その後、戦後の混乱、貧困、高度成長、インフラ整備、バブル崩壊と色々経験してきました。此の際、私は先祖のルーツを家系図で辿り、自分の生きてきた証を歴史年表にすることを思い立ちました。調べていると、忘れていた事が沢山思い出され、自分が呼び覚まされ、自分を再発見出来ました。仲間や知人の名前も数多く思い浮かび、脳トレにもなると、大いに期待しています。何年かかるか解りませんが「自分史」の作製にもチャレンジしたいと、意気込んでいます。歴史年表を作製中ですが特記事項に書き切れない程のものがあります。戦争をはじめ、事件や、地震、津波、台風、水害等々、自然災害の他、政権交代も目まぐるしいです。又、経済発展の一方で野山が荒れ、地方の過疎化も進み一千兆円を超える国の借金を抱え、少子化問題など、早く前途に光が見える国家運営が示される事を切望します。

今年、私は「あるがまま、自分らしく」をモットーに報恩、感謝の心を込めて、より明るく、楽しく生きる様、新年の誓いをしたばかりです。

どうぞ今後共一層のご交誼、ご指導の程よろしくお願い致します

初夢「天国覗きツアー」

加藤　勇

一一七号の続き

急遽三途の川のカヌーツアーをやめ、最近オープンした人気の冥途カフェへ行くことにした。花園の中にあった。年齢不詳の美人のメイドが出迎えてくれた。花園で採取した甘露なハーブ類で作ったスペシャルスムージーを飲んだ。最近男性には好評だ。近々イケメンスナックもオープンの予定だ。メイドさんの話によると、須弥山の山麓に温泉が出ているという、料金は無料で、混浴だという。日帰り入浴したいと思ったが時間がないので、花園のそぞろ歩きに参加した。

花園には動く歩道と車椅子が通れる木道が作られていた。尾瀬の大清水湿原には車椅子の木道が設置されており、歩きやすいので熊が良く利用していると聞く。天国には熊がいないので、そうした心配はない。今でも遠くから、小学校時代の友人の声がかすかに聞こえる。無視して散策を続ける。集合の時間が迫っている。そうこうしているうちに、目が覚めて、珍しいツアーに興奮してしまった。

立ち食いそばのルーツ

絹田治夫

今回は一一五号で紹介した蕎麦に関連するお話です。

さて、大衆そば屋のルーツはどこにあるのだろうか。蕎麦の麺だけを売り歩く「そば玉うり」は寛文四（１６６４）年に江戸で始まったとされている。調理方法に物理的制約があった当時のそば玉は、生麺ではなく茹麺であったと考えるのが妥当だろう。茹麺とは、麺をあらかじめの茹であげてひとり小分けしておき、注文時にあたためて提供するという方法で、現在のファスト系そば屋にも見られる業態である。貞享三（１６８６）年には夜間に蕎麦を売り歩く「夜（よ）そば売り」、すなわち屋台での販売が商売として確立していた。江戸時代の中後期には、そば切りのつなぎに小麦粉を入れる方法が主流となった。このつなぎを使うそばが流行したことで、そばの立ち食い屋台は更に増えていったと考えられる。

江戸の庶民が好んで食べていた「二八そば」の語源は、つなぎとそば粉の割合が二対八であったからという説の他にも、当時のそばの売値が十六文だったからとか、ふた椀で供されるかけそば、ひと椀の八文だったからなど諸説面白いが、いずれにせよ十七世紀には、江戸の大衆そば、立ち食いそば屋の原点が誕生していたことになる。

そばの屋台が流行した理由にも諸説あるが、江戸時代の庶民の食生活は、一汁一菜の質素なもので、十七世紀の初め頃までは一日二食が原則であったという。続く

ふわふわ亭わび助

「ちょっとそばでも」

坂崎仁紀　著（廣済堂）

より一部抜粋しました。

あおい俳壇・歌壇

食卓の　みかん残りし　ひとつのみ

襟元に　ひらり風花　歩を止める

桑原将晴

ロウバイ花　わたぼうしかぶり　狼狽や

春なのに　足とめくった　銀世界

今カツ子

目出たきも　歳を重ねて　うすくなり

初もうでにも　背むけまどろむ

控え目に　食べてた日々が　年明けに

おせちが入り　お腹びっくり

題詠「目」で二首　鈴樹清明

春近し　梅は咲いたかまだかいな

生きるしごとの　波乱人生

今カツ子

エサ箱に　雪積りあり　居並べる

雀八羽の　とまどい見たり

十人の　孫ひ孫に囲まれて

新年祝う　夫の笑顔よ

麻生伊登子